



気象学研究分野では、地球規模の水循環モデルの構築、地球温暖化や気候変動予測、天気予報の精度向上、水資源管理、農業生産性予測などに密接に関連する「降水現象」について、雲の中の小さなスケールに注目して、観測的なアプローチで研究を行っています。特に、毎年のように災害が報告される集中豪雨やゲリラ豪雨をもたらす降水雲内の水の集中化メカニズムの解明を目指して、梅雨から冬季の降雪まで、現場で現象を直接観測し、真理を探究しています。

研究テーマ

1. 固体降水粒子の鉛直分布と水の集中化プロセスに関する観測研究
2. 降水粒子測定のための新しい気象観測機器の開発研究
3. 衛星リモートセンシングの地上検証に関する研究

